



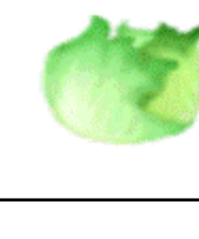


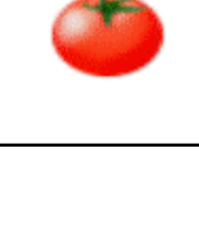
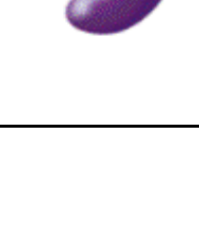

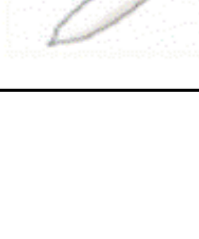



野菜の需給・価格動向レポート(平成25年1月21日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	12月の価格動向			1月の価格動向		生育及び価格の1月の見通し	
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		
		中旬	下旬				上旬
葉 茎 菜	キャベツ 	66.3	78	85	88.05	116	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：13,234(100)</li> <li>・主産地：愛知(53)、千葉(25)、神奈川(15)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知産は、降雪の影響もなく順調な出荷で前年より多めの出荷となり、今後も順調な出荷の見込み。千葉産は、低温の影響で生育が停滞し、小玉傾向で少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。</li> <li>・愛知産の出荷が順調と見込まれるものの、レタスの代替需要も見込まれ需要が堅調なことから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。(トピック欄参照)</li> </ul>
		69.92	76	78	83.73	107	
	ねぎ 	218.22	244	268	229.99	316	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込数量：5,029t(98)</li> <li>・主産地：千葉(35)、埼玉(25)、茨城(17)、群馬(11)、輸入(3)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉産は、低温の影響で平年より少なめの出荷となっていたが、生育は回復傾向であり、今後は平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、生育が遅れていたものの出荷が重なったことから出荷量が増え、今後も平年を上回る出荷となる見込み。茨城産は、平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回って推移している価格は、平年並みに近づき見込み。</li> </ul>
		314.62	364	420	309.39	489	
	はくさい 	36.65	46	51	61.12	67	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：13,303t(100)</li> <li>・主産地：茨城(84)、群馬(9)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城産は、最近の低温の影響により生育が停滞し、小玉傾向で少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。群馬産は、小玉傾向のため少なめの出荷となっており、今後は出荷量の増加が見込まれるものの、平年より少なめの出荷の見込み。</li> <li>・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年をやや上回って推移する見込み。</li> </ul>
		53.29	62	66	68.7	78	
	ほうれんそう 	350.1	631	653	307.66	600	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：1,315t(101)</li> <li>・主産地：群馬(35)、千葉(19)、茨城(19)、埼玉(17)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬産は、降雪の影響でやや少なめの出荷となっているものの、今後は出荷量が回復し平年並みの出荷となる見込み。千葉産及び茨城産は、低温の影響で少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。埼玉産は、平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・千葉産及び茨城産の出荷量が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>
416.76		652	570	341.25	563		
レタス 	233.85	362	357	233.85	399	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：6,854t(96)</li> <li>・主産地：静岡(36)、香川(15)、兵庫(13)、熊本(8)、千葉(6)、福岡(4)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡産は、低温の影響で小玉傾向で少なかつた前年より少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。香川産及び兵庫産は、小玉傾向で少なめの出荷となっていることに加え、今後は多雨による腐れも懸念される。</li> <li>・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。(トピック欄参照)</li> </ul>	
	226.75	331	346	226.75	385		
たまねぎ 	76.15	67	68	76.15	71	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：9,407t(105)</li> <li>・主産地：北海道(87)、輸入(9)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道産は、作柄良好で前年を上回る出荷となっている。今後は平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・順調な出荷が見込まれる中で、他の野菜の価格が高めに推移し需要が堅調なことから、平年を下回って推移している価格は、平年を並みに推移する見込み。</li> </ul>	
	76.15	73	77	76.15	74		
果 菜	きゅうり 	370.98	507	506	370.98	516	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：4,915t(100)</li> <li>・主産地：宮崎(40)、高知(21)、千葉(20)、茨城(6)、埼玉(6)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎産は、低温の影響で生育が進まないことから少なめの出荷の見込み。高知産は、年明けからの天候の回復により着果数が増え、今後は出荷量が増加する見込み。千葉産は、少なめの出荷の見込み。</li> <li>・宮崎産及び千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>
		350.33	491	490	350.33	484	
	トマト 	332.69	478	473	332.69	400	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：4,625t(100)</li> <li>・主産地：熊本(43)、愛知(19)、栃木(11)、静岡(6)、千葉(5)、宮崎(4)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本産は、低温の影響による生育遅れが続き、平年よりやや少なめの出荷となっており、今後は曇天が続くと見込まれることから、出荷は少なめの見込み。愛知産は、平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・熊本産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年をやや上回って推移する見込み。</li> </ul>
		311.06	457	448	311.06	393	
	なす 	389.03	449	441	389.03	393	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：1,883t(100)</li> <li>・主産地：高知(64)、福岡(18)、佐賀(6)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知産は、少なめの出荷となっていたが、年明けからの天候の回復により出荷量が増加傾向となり、今後は平年並みの出荷の見込み。福岡産は、低温の影響で着果数が少なかつたことに加えて細いものが多く、少なめの出荷となっており、月末までは少なめの出荷の見込み。</li> <li>・高知産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。</li> </ul>
		397.74	450	462	397.74	393	
	ピーマン 	344.39	506	549	551.24	708	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：1,223t(100)</li> <li>・主産地：宮崎(46)、高知(24)、鹿児島(18)、茨城(12)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎産は、低温の影響による生育遅れが続いたことに加えて、着果数が少ないことから、少なめの出荷となっており、月末までは少なめの見込み。高知産は、平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、低温の影響で花落ちが多かつたことから、少なめの出荷量となっており、今後は少なめの見込み。茨城産は、出荷量が少ない時期であるが、平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・宮崎産及び鹿児島産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>
353.61		486	533	513.91	636		
根 菜	だいこん 	64.33	72	90	79.03	110	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：12,213t(100)</li> <li>・主産地：神奈川(57)、千葉(36)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川産は、低温の影響で生育が停滞し細物中心となり、少なめの出荷となっており、今後は少なめの出荷の見込み。千葉産は、低温の影響で生育が停滞し、少なめの出荷の見込み。</li> <li>・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>
		76.48	77	92	80.47	104	
	にんじん 	100.82	111	130	101.05	126	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷見込量：6,434t(95)</li> <li>・主産地：千葉(83)、埼玉(10)、茨城(4)、輸入(2)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉産は、低温の影響で生育が停滞し小ぶりで少なめの出荷となり、今後は少なめの出荷の見込み。埼玉産も、低温の影響で肥大が進まず、少なめの出荷となっており、今後は少なめの見込み。</li> <li>・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>
104.49		115	164	104.73	114		

種類	12月の価格動向			1月の価格動向		生育及び価格の1月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	
		中旬	下旬			
いも	200.88	246	257	217.95	249	・入荷見込量：793t (100) ・主産地：埼玉 (42)、千葉 (25)、輸入 (10) ・埼玉産は残量が少ないため、平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
	207.2	212	254	219.65	194	
ばれいしょ	88.17	89	92	88.17	99	・入荷見込量：9,021t (105) ・主産地：北海道 (63)、長崎 (26) ・北海道産は、引き続き安定した出荷となっている。今後も平年並みの出荷の見込み。長崎産は、順調な出荷となり、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
	88.17	86	90	88.17	92	

- 1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
- 2) 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
- 3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
- 4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。
- 5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
- 6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

## 2 野菜の需要動向

年	生鮮野菜の購入数量及び金額 (1人当たりの購入数量と金額)						主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移 (単位: 円/kg)							
	過去5か年平均		平成23年		平成24年		キャベツ			レタス				
	購入数量(g)	金額(円)	購入数量(g)	金額(円)	購入数量(g)	前年比	金額(円)	前年比	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	97	1,634	104	166	230	138	547	690	126
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	105	1,735	107	177	247	140	508	691	136
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	94	1,851	104	188	238	126	461	692	150
4月	4,779	1,812	4,796	1,789	4,620	96	1,904	106	238	262	110	462	513	111
5月	5,109	1,894	5,171	1,820	4,945	96	1,948	107	172	196	114	380	409	108
6月	5,043	1,872	4,904	1,857	5,103	104	1,875	101	144	127	88	350	305	87
7月	4,441	1,696	4,362	1,759	4,386	101	1,675	95	160	119	75	324	292	90
8月	4,348	1,719	4,392	1,717	4,245	97	1,618	94	156	111	71	463	296	64
9月	4,831	1,804	4,598	1,803	4,916	107	1,703	94	155	101	65	562	307	55
10月	5,262	1,862	5,037	1,884	5,242	104	1,761	93	161	101	63	505	325	64
11月	5,016	1,636	5,091	1,613	5,039	99	1,602	99	162	103	64	371	382	103
12月	5,145	1,834	4,998	1,792	0	0	0	0	153	119	78	453	591	131

家計調査によると、11月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,039gで前年比99%、購入金額は、1,602円で同99%となり、購入数量、購入金額ともに前年並みだった。また、小売物価統計によると、12月のキャベツの小売価格は、119円で過去5か年平均比78%、レタスは、591円で同131%となり、キャベツは過去5か年平均を大幅に下回り、レタスは大幅に上回った。

資料: 総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

- 1) 過去5か年は平成19～23年の平均。
- 2) 平成24年12月の値は、12月中旬の速報値。

資料: 総務省「小売物価統計調査報告」

## 3 野菜の輸入動向

区分	野菜の輸入数量の推移 (単位: トン、%)				主な野菜の輸入動向 (単位: トン、%)							
	平成22年		平成23年		平成24年1～11月		平成24年11月		輸入先	平成23年12月(A)	平成24年12月(B)	(B)/(A)
	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比								
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	874,650	105	63,378	92	合計	30,548	21,772	71
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	1,742,425	107	173,954	111	中国	25,728	17,840	69
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	2,617,075	106	237,332	105	アメリカ	4,800	3,833	80
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	1,333,052	105	124,097	103	にんじん 合計	4,429	4,871	110
中国産シェア	51		52		51		52		中国	4,256	4,762	112
									オーストラリア	138	72	52
									ねぎ 合計	4,242	4,403	104
									中国	4,239	4,392	104

資料: ベジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

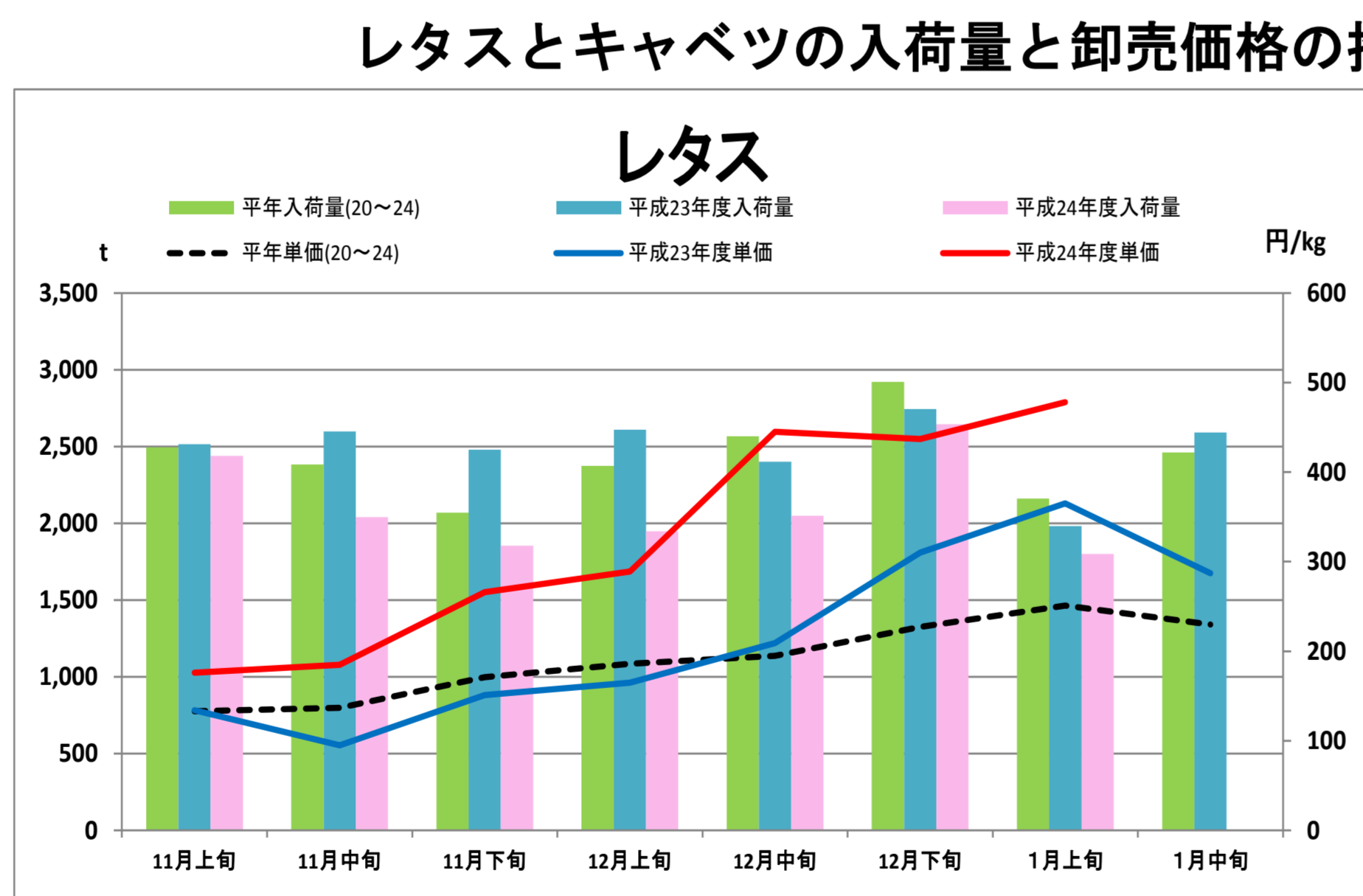
資料: 農林水産省「植物防疫統計」。平成24年12月は、速報値である。

## 4 トピック —レタスとキャベツの価格動向—

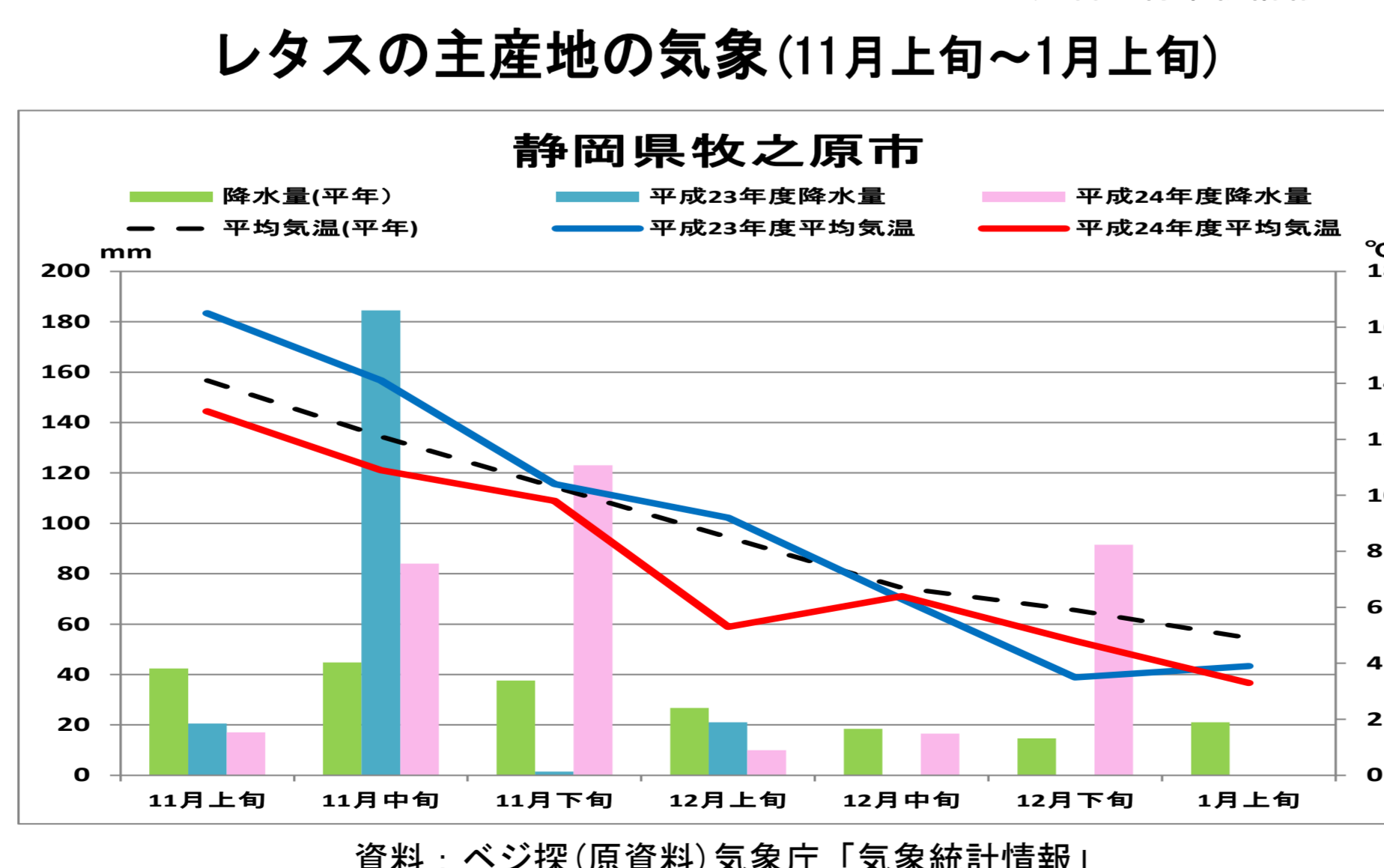
時期	品目	レタスとキャベツの入荷量と卸売価格の推移(11月上旬～1月中旬、東京都中央卸売市場)	
		入荷量(トン)	単価(円/kg)
平成17年冬(12月下旬)	レタス	86%	157%
	キャベツ	100%	179%
平成24年冬(12月中旬)	レタス	84%	187%
	キャベツ	103%	109%
平成24年冬(12月下旬)	レタス	94%	158%
	キャベツ	100%	113%
平成25年冬(1月上旬)	レタス	83%	190%
	キャベツ	103%	135%

注: 平成15年以降で、冬のレタスの単価が高く(150%以上)、キャベツの入荷量が平年並み以上の時期を抽出した。資料: 青果物情報センター

レタスは、11月上旬から少なめの入荷量となり、価格が平年及び前年を上回って推移し、12月中旬以降、価格が大きく上昇している。入荷量が減少したのは、11月以降、平年より早い寒さが訪れたことから生育が停滞し、供給量が少なくなったことによる。一方、キャベツの価格は、11月上旬から12月上旬までは、平年及び前年を下回って推移していたが、12月中旬以降、入荷量がおおむね平年及び前年を上回っていたにもかかわらず、価格は平年を上回って推移している。これは、レタスの入荷が少ない中で、加工・業務用を中心にレタスからキャベツへの代替需要があったことが大きく影響したものと思われる。過去のレタスとキャベツの入荷量と価格の関係を見ると、レタスの入荷量が少なく、価格が高くなると、キャベツの入荷量は減少しなくても、価格が高くなっていく。今後、キャベツの主産地の愛知産の出荷は比較的順調であると見込まれるものの、レタスが主産地の静岡産等が低温の影響で、今後も少なめの出荷が続くと見込まれることから、キャベツの価格はしばらく高めに推移するものと思われる。



資料: 青果物情報センター



資料: ベジ探(原資料)気象庁「気象統計情報」

- 問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
- ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
- ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。